

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2022

課題番号：22K20134

研究課題名（和文）Japanese Organizational Activities in Geographic Communities: From the Perspectives of Organizational Institutionalism and Human Geography

研究課題名（英文）Japanese Organizational Activities in Geographic Communities: From the Perspectives of Organizational Institutionalism and Human Geography

研究代表者

張 益民 (ZHANG, YIMIN)

京都大学・経済学研究科・ジュニアリサーチャー

研究者番号：60967991

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域の規範や伝統が地元の組織活動とどのように相互影響するかを探求しました。研究期間中、三つの研究プロジェクトを行いました。第一のプロジェクトでは、地域の地理的特性が伝統行動にどのように影響を与えるかを分析しました。第二のプロジェクトでは、組織の大きさが地元の組織活動にどのように影響を与えるかを分析しました。そして、第三のプロジェクトでは、社会規範と個人行動がどのように相互作用するかを先行研究を系統的に統合しました。これらの研究から、地域の規範と伝統が地元の組織活動と連携する仕組みをより理解することができ、地域社会の発展に役立てることができます。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：この研究は、地域の規範と伝統が地元の組織活動とどのように連携するかについての理解を深めることで、組織論の理論的制約を克服することを試みました。具体的には、地域の地理的特性、地域に付与される意味と地元の組織活動との相互作用を明らかにしました。

社会的意義：この研究の成果は、地域経済の活性化と人口維持に貢献することができます。地域の特性や伝統が地元の組織活動とどのように連携するかを理解することで、地域密着型金融の在り方や地域伝統の振興策をより効果的に計画し、実行することが可能になります。また、この理解は地域文化の保全と観光の発展にも役立ち

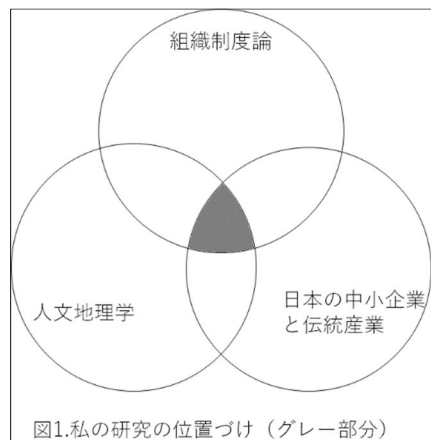
研究成果の概要（英文）：This research investigated how local norms and traditions interact with local organizational activities. During the research period, I conducted three research projects. In the first project, I analyzed how geographical characteristics of a region influence traditional behaviors. In the second project, I examined how the size of an organization affects local organizational activities. In the third project, I systematically integrated prior studies to understand how social norms and individual behaviors interact. Through these studies, we were able to better understand the mechanisms through which local norms and traditions work in concert with local organizational activities, which can be utilized to contribute to the development of local communities.

研究分野：経営学

キーワード：地元組織活動 伝統 コミュニティ・バンク 地理的場所 信用金庫 濁酒 社会規範

1. 研究開始当初の背景

本研究の核心となる学術的課題は、特定の地理的コミュニティ内における日本の組織とその活動の位置付けについて解明することであり、そのための研究対象として濁酒(どぶろく)と信用金庫を選定した。本研究の学術的背景は三つある。まず一つ目、近年の組織制度論の研究では、コミュニティの規範や文化がコミュニティ組織の行動論理にどのように影響を与えるかが問われている。二つ目、組織の研究者たちは、人間地理学の知見を用いて組織と地域コミュニティがどのように相互に構築されているかを問い始めた。三つ目、日本の



中小企業や伝統産業に対する研究では、地域コミュニティと地元の長寿企業との共存・共栄のメカニズムが何であるかが問われている。私の研究はこれら3つの研究の流れを統合し、組織と場所の理論的關係、そして日本の地域組織の管理についての示唆を提供することを目指す。

学術的な視点からだけでなく、実践的な背景からも本研究は生まれている。地域経済の活性化と人口維持を目指し、地域自立と地域の特性を重視する中で、中小企業へのコミュニティバンクの支援役割と、地域住民による地元の伝統の再活性化を理解することが極めて重要となっている。本研究は特に、信用金庫という特定のタイプのコミュニティバンクと、濁酒という地元の伝統に主眼を置いている。具体的には、非営利の協同組合型金融機関である日本の信用金庫は、地元で集めた資金を地元の企業や住民に再分配することで地域コミュニティの発展に貢献することが期待されている。一方、日本の地方地域の伝統的なアルコール飲料である濁酒が歴史上厳しく規制されてきたが、近年では地元の文化を継承する視点や観光開発の観点から再評価されている。これらのケースを研究することで得られる知見は、地域の人々と地元の企業がどのように協力し合い、互いに恩恵を得るかというメカニズムを探ることに役立つ。

2. 研究の目的

本研究の目的は、信用金庫と濁酒といった日本の事例を用いて、組織と場所との間の相互作用を考察することで、地域の規範や文化と組織活動との共存に新たな視角をもたらすことである。

3. 研究の方法

本研究では、提案された研究目的を解明するために、研究期間中に三つの研究プロジェクトを実施した。

第一のプロジェクトでは、地理的場所が伝統の保全にどのように影響を与えるかを探求する。具体的には、第二次世界大戦前の濁酒の自家製造法禁止後も、秋田県の農民が濁酒を密造し、政府の警察活動に抵抗し続けた方法を探求する。これは史料に基づく定性的な研究であり、研究期間中の目標は英語のジャーナルから査読コメントを受け取るか、またはが学会発表することで

ある。

第二のプロジェクトでは、規模の拡大が地域組織行動にどのように影響を与えるかを探求する。具体的には、信用金庫間の統合による信用金庫の業務領域の拡大が、彼らの貸出活動にどのように影響を及ぼしたかを探求する。この研究は、パネル・データに基づく定量的な研究であり、研究期間中の目標は論文の初稿を完成させることである。

第三のプロジェクトでは、特定の場所と組織における広範な社会規範と個人行動がどのように相互構築するかを探求する。この論文は、関連する先行実証研究の系統的なレビューであり、研究期間中の目標は英語のジャーナルから査読コメントを受け取るか、または学会発表することである。

4 . 研究成果

本研究は三つのプロジェクトを通じて研究成果を得ており、それぞれの成果が集約され、全体として我々がどのように地域の規範と伝統が地元の組織活動との相互構築という研究目的へ多大な貢献を与えた。

第一のプロジェクトでは、地域の社会的、経済的、政治的特性と地元の伝統保全活動との関連性を探求した。特に、1899年から1945年間の政府の取り締まりに対して、秋田県の3つの地域の農民がどのように自分たちの濁酒（どぶろく）の醸造と飲用の伝統を維持したかについて、資料に基づいて帰納的に調査した。本プロジェクトの発見として、伝統的で保守的な地域では、住人たちは地元の規則や価値を深く愛し、外部からの挑戦に対して強硬に抵抗することが見受けられた。経済的に困難な地域では、人々は地元の伝統的实践を利用して生計を立てることが必要で、外部からの挑戦に対しては自暴自棄になることで対抗していた。一方、政治的に意識高い地域では、住民は地元の制度や規則を継承する合理性を見出し、外部からの挑戦には計画的妨害した。この論文は、地理的な場所が人々の行動にどのような影響を与えるかを理解するための新たな視点を提供した。具体的にいうと、制度や規則はその場所の文化や経済状況に深く埋め込まれていることを示した。また、制度や規則がどのように理解され、どのように反応されるかは、その場所の特性によって大きく影響されることを示した。また、比較事例研究方法が、場所がどのように行動者の行動に影響するかを理解するための有用な研究方法であることを示した。

第二のプロジェクトでは、規模の拡大が地域組織行動にどのように影響を与えるかを信用金庫の合併の歴史を研究対象として探求した。研究期間中では、『日本金融名鑑』と『全国信用金庫財務諸表』というデータの存在を確認し、その収集と整理を進めている。これらの資料は紙ベースであり、かつ他大学にあるため、膨大な時間が必要である。また、信用金庫に関する日本語と英語の先行研究をレビューし、コーポレート・ガバナンスと信用金庫の事業領域の拡大、および組織行動と強く関連していることが明らかになった。これを踏まえ、今後はコーポレート・ガバナンスと信用金庫の合併という方向性で研究を続ける予定である。

第三のプロジェクトでは、特定の場所と組織における広範な社会規範と個人行動がどのよう

に相互構築するかを先行研究レビューすることで探求した。私たちが住む社会にはたくさんの規則や規範が存在し、その全てが私たち一人一人の行動や考え方に影響を与えている。そんな複雑な世界で、どのようにして私たち個人と様々な組織や制度がつながっているのか、本研究が大規模なレビュー研究を通じて明らかにした。具体的には、大きな組織や社会全体（フィールドレベル）では、規則やガイドラインを提示すること、所属感や連帯感を育むこと、人々を区分けすることの3つの方法で、私たち個人の考えや行動に影響している。一方、個々の組織のレベルでは、組織が構造や組織ルーチンを編集すること、組織の価値観を植え付けること、組織内の対立や矛盾を調整することの3つの方法で私たち個人の考えや行動に影響している。これらのメカニズムは、大きな組織や社会から私たちへの影響プロセス（トップダウン）だけでなく、私たち一人一人から組織や社会への影響プロセス（ボトムアップ）においても機能する。この研究により、私たちは、広範な社会規範と個人行動との相互作用についてより包括的に理解することができるようになった。

総じて、私は、日本の信用金庫と濁酒を研究対象として、地域の規範と伝統が地元の組織活動とどのように連携するかという研究課題を研究してきた。これらの研究成果は、地域の規範や伝統が地元の組織活動とどのように連携し、互いに影響し合うかという課題に対する我々の理解を深めた。特に、人間地理学から生まれた場所という概念は、コミュニティと組織活動との関係についての既存の議論を拡張するための有望な手法であることが示した。これらの研究成果を活用することで、地域の規範と伝統が地元の組織活動と連携するプロセスをより深く理解し、これを具体的な活動や政策に反映することが可能になる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Zhang, Yimin; Wang, tao
2. 発表標題 PLACE AND TRADITION: CUSTODIANSHIP OF HOMEMADE SAKE IN AKITA PREFECTURE, JAPAN
3. 学会等名 18th Workshop on New Institutionalism (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Zhang, Yimin; Wang, tao
2. 発表標題 PLACE AND TRADITION: CUSTODIANSHIP OF HOMEMADE SAKE IN AKITA PREFECTURE, JAPAN
3. 学会等名 AAOM/APJM Paper Develop Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Zhang, Yimin; Wang, tao
2. 発表標題 PLACE AND TRADITION: CUSTODIANSHIP OF HOMEMADE SAKE IN AKITA PREFECTURE, JAPAN
3. 学会等名 The 1st Waseda-Kyoto Management Conference
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

公開された博士論文
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/279097>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------